

第 63 回 日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会 演題抄録執筆要項

1. 演題の登録は、全て電子メールによる登録とします。

E-mail: 63yuketsukinki@c-linkage.co.jp 宛にお送り下さい。

2. 電子メールの件名（表題）は「輸血抄録・筆頭発表者氏名」として下さい。

3. 抄録は、Word で作成頂き、Microsoft Word 2010 のバージョンで開いた状態で文字化けが発生しないか必ずご確認の上、お送り下さい。

4. 文字数は、演題名、所属、演者名および本文を含め 600 字以内とします。

5. 文字化けを防ぐために下記フォントに限定します。

日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝

英語：Century、Century Gothic、Arial、Arial Black、Times New Roman

6. 抄録は、演題名、所属、筆頭発表者名、共同発表者名、本文の順に記載して頂き、筆頭発表者名には、○をつけてください。

7. 図表は使用できません。

8. 下記の作成見本を参照の上、作成して下さい。

9. 演題応募締切：~~令和元年 9 月 6 日（金）必着~~です。**9 月 11 日（水）正午まで延長致しました。**多くの先生方からのご応募をお待ちしております。

作成見本

近畿地区大学病院における洗浄血小板の使用状況

近畿大学医学部附属病院 輸血・細胞治療センター¹⁾、近畿地区大学病院²⁾

○金光靖¹⁾、地守慶亮¹⁾、前田朋子¹⁾、中野勝彦¹⁾、福島靖幸¹⁾、川野亜美¹⁾、山田枝里佳¹⁾、井手大輔¹⁾、前田岳宏¹⁾、椿本裕子¹⁾、前川清¹⁾、芦田隆司¹⁾、志摩美緒²⁾、中尾まゆみ²⁾、大西修司²⁾、万木紀美子²⁾、笹田裕司²⁾、上田真弘²⁾、山下朋子²⁾、長谷川真弓²⁾、池本純子²⁾、松浪美佐子²⁾

【目的】洗浄血小板の調整は各施設での自家調整が中心であったが、昨年 8 月より日本赤十字血液センターからの供給が可能となった。今回、現在の大学病院における洗浄血小板の使用状況についてアンケート調査を行ったので報告する。

【方法】近畿地区大学病院の輸血検査部門にアンケートを送付した。製造元、適応条件、調整方法、使用件数などの項目について回答のあった 11 大学について集計した。

【結果】11 施設すべてで洗浄血小板が使用されていた。製造元は血液センターのみが 3 施設、院内のみが 4 施設、院内+血液センターが 4 施設であった。適応条件は、すべての施設で決めておりほぼ指針に沿っていた。院内調整を行っているのは 8 施設で、洗浄液は A-sol が 4 施設、G-sol が 2 施設、BRS-A が 2 施設であった。また、洗浄置換が 4 施設、置換が 4 施設であった。遠心条件は 1110G～3750G、5～15 分間とかなり幅があった。2017 年 1 月から 6 月までの使用件数は 0 件が 4 施設、1 件が 1 施設、10 件台 2 施設、40 件台 2 施設、230 件が 1 施設であった。

【まとめ】血液センターの供給が始まったが、大学病院では院内調整が出来る体制をとっている施設が多かった。洗浄方法については、特に遠心条件、再浮遊条件で施設間差が大きく、学会などによる標準法の設定が望まれる。